

させる。

(4) 「読みを深める」とは

児童が一人読みでもった読みを話し合いを通して確信を持ったり、読みを改めたり他の読みを認め考えを広めたりすること。

Ⅲ 検証授業の実際と考察

1. 本時までの取り組み

読みの視点を設けた後、視点をもとにした一人読み（資料1）を場面ごとに行った。そして、この一人読みから出された疑問を中心として、グループ学習で話し合い、場面ごとの読みを深めさせるとともに、学級全体で話し合いたい課題を作った。課題作りの後、この課題に対する一人読み（資料2）をさせることにより課題に対する各自の考えをもたせ話し合いに臨ませるようにした。

（資料1）

（資料2）

2. 検証授業【1】

- (1) 題材名「大造じいさんとガン」(9/13)
- (2) 本時のねらい

仲間を救おうと命がけで助けに来た残雪に対して、かまえた銃を下ろしてしまった大造じいさんの心情を理解することができる。

(3) 学習過程

順	学習活動・内容	時間	教師の支援 ● 評価	仮説との関連
1	1. 本時の課題をつかむ。 (1) 物語の読みの視点を確認し、本時の学習場を明らかにする。 (2) 本時の課題を提案する。 銃を下ろした大造じいさんの気持ちを読み取る。	7	○ 読みの視点 「情を思い浮かべながら、残雪に対する気持ちの移り変わりを読み取る。」を確認し、残雪を撃つのに絶好の場面であることを確認する。 ○ 児童から課題の提案をさせ、話し合いの方向づけをする。 ● 学習課題を明らかにすることができたか。(観察)	○ 助言を書き込んでおき、多くの児童が発言できるようにする。(観察)
2	2. 銃を下ろした大造じいさんの気持ちについて話し合う。 (1) 一人読みでもった個の読みを発表する。 (2) 児童の発表から、読みの違いをとらえる。 (3) 大造じいさんが銃を下ろしたわけについて話し合う。 「感動される児童の読み」 「残雪の行動に感動したためイひきょうな戦い方と感じたためおとりのガンを助けたかったため残雪がハヤブサにやられると考えたため」	28	○ 一人読みのノートに教師の助言を事前に書き込んでおき、多くの児童が発言できるように促す。 ○ 児童にとらえやすいように意見を類別して発表する。 ○ 児童の読みをまとめた板書の中に児童の氏名を書いた磁石をはり、誰がどの考えであるのか明確にする。 ○ 一人読みに基づいて個の読みの根拠を発表させる。 ● ノートにまとめた内容を進んで発表(発表)しようとしているか。 ○ それぞれの読みが大造じいさんの気持ちとして読んだものではないのかを問い、他の読みに対する考えをもちかせる。 ○ 他の読みに対する意見を述べさせるとともに、自分の読みを主張させる。 ○ どの読みが大造じいさんの気持ちとして正しく読みとれるのかをまとめる。	○ 事前に板書表にまとめておいた児童の一人読みの結果を基にして、多様な意見が出るように指名する。(観察) ○ 読みの違いがわかるように児童の読みをまとめて概念的に板書するようにする。(観察) ○ 板書表にまとめた結果から挙手しない児童についても、読み発表を促す。(観察) ○ 氏名を書いた磁石をはっていくことにより、各自の立場を明確にするともに、話し合いに生かせるようにする。(観察) ○ 少数の児童の考えから類に読みの種類ごとに発言させていく。(観察) ○ 読みの根拠を一人読みの際にノートにまとめておく。 ○ 他の読みに対する自分の考えを明確にさせる。(観察)
3	3. 本時の学習のまとめをする。 (1) 書つきのやめた大造じいさんの気持ちについて読み深めたことをノートにまとめる。 (2) 大造じいさんの気持ちや情を思い浮かべながら朗読する。	10	○ 本時の学習により、読み深めたことをノートにまとめさせる。 ● 話し合いにより深められた読みをノートにまとめることができたか。(ノート) ○ 読み深めた内容が表れるように工夫しながら朗読できるようにする。 ○ 学習カードにより、本時の学習を振り返り、自己評価する。	○ 根拠となった言葉がどれであるのかはっきりさせて考えを発表させる。(観察) ○ 読みの根拠をまとめ、正しく読みとれることを確認する。(観察)

(4) 指導の結果

① 「読みの違いを明確にする」段階

本時の前までに、一人読みの内容を座席表にまとめ、読みの内容ごとに類別して準備した。本時では、課題に対する読みを簡潔に発表させることにより、読みの立場を明確にして、全ての児童に理解できるように支援した。

また、課題に対しては、次の三つの読みが出された。

- ア おとりのガンを助けようとする残雪の行動に感動した。
- イ 今撃ってしまうことは、ひきょうな戦い方と感じた。
- ウ おとりのガンを助けようと考えた。

課題に対する読みを発表させた後、自分は何の読みをもったのか全員に判断させ、黒板に氏名を書いた磁石をはることで